

1人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内（未発表のものに限る）。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292 白石市大手町1-1 白石市総務課へ。はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。
毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。（☎koho@city.shiroishi.miyagi.jp）

市民文芸

歌壇 岩崎 聰之介 選

剪定中途入院せし夫思わゆる脚立熱そう庭に照る秋
新盆の仏間の夜半の絵灯籠見つれば寂し亡夫へ語り掛く
白無垢の孫と写れる此の一枚あの日忘るまじ婆には宝
秋彼岸畦道遠くまで墓参り昔父母と歩きしよ此処
日に温き庭のミニトマトこれで終り二粒づつを夫と分け合ふ
一雨を期待しながら猛暑日のけふも一日を無為に過ごしぬ
お茶請けは茄子漬け二本丸かじり話弾めり友も旨しと
昔むかし私が唄った子守唄三十路の孫の唄えるを聴く
丁寧におつき合ひせしわが母や葬式百人余今に思い出す
ありがたや妻と暮らして五十年居ればうさし居なけりや寂し
我妻 孝則

評一首目、暑い秋か、夫を気づかう作者。脚立もまたそのお帰りを待つものなのであろう。三句目は、思はるることだの略。
二首目、仏間の夜半の様子、丁寧な描写で引き込まれる。昨年夏に旦那さまご逝去。
三首目、晴れやかなお二人の写真が思われる。宝だとした結句が響く。

俳壇 山家 弘子 選

かなかなやこの世とあの世鳴きとおす
十六夜を亡夫も見よと窓を開け
秋野菜恵みの雨に生きかえる
登園の泣き顔の子や蟬時雨

佐川 鉄輪
菊地せつ子
志村かつい
平間 幸恵

柳壇 四竈 英夫 選

里山の緑の風吹く小道かな
青空を色どりをりぬ百日紅
お城山夕焼け染まる天守閣
草むらに虫達集い声をふる
草むらに虫の声聞く風呂上がり
塀に沿ひ摘みし若荷の十数個

評一句目、かなかなは夜明けや日暮に高く美しい哀愁を帯びた声で鳴く。あの世でも鳴くと言いきったことで深い句になった。
二句目、月の出が名月よりも遅れるので淋しさがある。その月を亡き夫にも見せたいというその思いに胸が熱くなる。
三句目、雨が降らず庭の草花が枯れ初めたのを思い出す。野菜ともなれば気がもめたことであろう。雨がやっと降ってくれた安堵。

救急車来れば見守るご近所さん
水不足片や洪水自然界
政権に米増産の旗振られ
青空は今日も極暑を連れて来る
体温を超える気温の新記録
シャワーだけ湯船はいらん酷暑の日
老いの家曾孫の声や天使の瞳
無事ですとペナント下げた防災日
半月ぶり家へ戻れば雑草の山
深呼吸人それぞれの幸がある

評一句目、ピーポーやサイレンが鳴ると、つい表へとび出し遠ざかってホッとする。「救急車ど」だどと人が出る。
二句目、酷暑水不足の一方、大雨洪水の被害も。自然界の脅威と人間の無力さが。「治にいて乱を忘れず、備えあれば憂いなし」。
三句目、米余りの時代から一転米不足。備蓄米の放出など米価の抑制が続いている。猫の目農政などと酷評された時代を思い出す。

末吉アツ子
菊川いつ子
遠藤 松雄
小室アイ子
佐藤 啓子
我妻 孝則
大庭美智子
星 明
遠藤 舞
平間 大恵

Shiroishi Market

フレッシュマーケット

～地元農産物の魅力を発信～

地元の農産物や直売所などの魅力をお届けします。
～白石市農産物直売所連絡協議会は、地産地消を推進！～

市内の農産物
直売所情報▶



「里芋」に栄養と歴史あり！

縄文時代に伝わったとされる里芋は、日本ではお米より先に主食とされていた歴史ある野菜で、市内でも昔から作られています。「白石三白野菜」のひとつである里芋の品種「土垂芋」は、粘り気とほくほくとした食感を楽しむことができ、煮崩れしにくいので汁物や煮っ転がしに最適です。

また、里芋は高血圧やむくみ予防、胃の粘膜保護などに役立つと言われ、食物繊維も豊富なため、健康上の効果が期待できます。栄養満点の里芋料理で温まりながら、寒い季節を乗り切りましょう！

☎農林課 ☎22-1253



▲「土垂芋」の見た目は、コロンとした膨らみのある楕円形が特徴です

皆さんからのすてきな情報を待っています！／

まちかどズームイン



▲ゲームを楽しむ子どもたち。多くの親子が来場しました

ゲームで親子の絆を深める 109-one「親子まつり」

10月11日、鬼小十郎まつりに合わせ、移住交流サポートセンター109-oneで「親子まつり」が開催されました。会場には輪投げや射的など手作りの7種類のゲームを用意。多くの親子が来場し、ゲームを楽しんでいました。

また、この日は白石市応援学生団体「のびshiro」のメンバーも会場を盛り上げていました。



▲みんなで息を合わせて元気に体操！

百歳体操で元気長続き！ 第6回白石市いきいき百歳体操大交流会

10月10日、ホワイトキューブで「第6回白石市いきいき百歳体操大交流会」を開催しました。この日は、市内の通いの場など27団体から約160人が参加し、立ち上げから10年を迎える8団体の表彰が行われました。参加者は音楽に合わせて体を動かしながら、笑顔で交流を楽しみ、和やかなひとときとなりました。



▲天守閣で濃茶を堪能する参加者

白石城天守閣でお茶を一服 白石城開門30周年記念事業「第27回白石城茶会」

9月21日、白石城で秋の恒例行事の市民茶会「第27回白石城茶会」が開催されました。席主に江戸千家十一世家元川上閑雪宗匠をお迎えし、参加者は天守閣1階で点心和地酒を堪能。その後2階に移動し、濃茶をいただきました。参加した皆さんは、白石城の歴史に思いを馳せながらお茶を楽しんでいました。



▲楽しそうにサツマイモを掘る園児たち。たくさん収穫しました！

秋空に園児の歓声響く みのり保育園の園児がサツマイモ掘り体験

10月8日、みのり保育園の4歳から6歳の園児35人がサツマイモ掘りを体験しました。同園では食育の一環として、畑を借りてサツマイモを栽培。地域の協力もあり、この日は大きく育ったサツマイモ約150キロを収穫しました。体験した園児たちは「大きなおいもがたくさんとれた！」と歓声を上げていました。